

事業概要

2010

2010年事業概要目次

(社)日本動物園水族館協会

第 1.	協会の概要	1 頁
第 2.	事業の総括	7 頁
第 3.	役員及び専門委員	9 頁
第 4.	総会及び理事会	15 頁
第 5.	園館長協議会	16 頁
第 6.	研究発表会等	17 頁
第 7.	各種講習会等	21 頁
第 8.	運営委員会の活動	23 頁
第 9.	出版活動	24 頁
第10.	種の保存に関する活動	26 頁
第11.	飼育技師資格認定試験	33 頁
第12.	動物愛護週間行事	34 頁
第13.	各種の表彰	35 頁
第14.	国際交流	39 頁
第15.	関係団体等との協力	39 頁
第16.	ワシントン条約関連による緊急保護	40 頁
第17.	動物情報センターの活動	40 頁
第18.	動物情報センター基金	41 頁
第19.	野生動物保護募金事業	43 頁
第20.	動物園水族館活用ネットワーク推進事業	45 頁
第21.	平成22年度事業予算概要	46 頁
付録 1.	定 款	48 頁
2.	日本動物園水族館協会倫理要綱	56 頁
3.	新入会員入会審査要綱	59 頁
4.	正会員・維持会員名簿	62 頁
5.	一般配布刊行物一覧	70 頁

広 告

第1. 協会の概要

1. 名称 社団法人 日本動物園水族館協会

(英名: Japanese Association of Zoos and Aquariums 略称: JAZA)

2. 事務所の位置 〒110-8567 東京都台東区台東4-23-10 ヴェラハイツ御徒町402

3. 組織

(平成22年6月1日現在)

1. 総裁 秋篠宮文仁親王殿下

2. 会員

- 正会員: 156名 (動物園89園、水族館67館)
- 個人会員: 0名
- 維持会員: 49団体

3. 議決機関

- 総会: 年1回開催、正会員で構成する。
- 理事会: 理事17名で構成し、年2~3回開催する。

4. 執行機関 [会長、専務理事、(理事会)]

- 事務局: 参与(非常勤)、事務局長、職員3名。
- 動物情報センター: 動物園・水族館および希少動物保護増殖に関する情報資料の収集と活用に関する事業を実施する。
- 地域別会議: 各ブロックに代表理事をおき、ブロック内協議会、研修会、研究会等を開催する。
 - 北海道ブロック
 - 関東東北ブロック
 - 中部ブロック
 - 近畿ブロック
 - 中国四国ブロック
 - 九州沖縄ブロック
- 運営委員会: 担当理事、部長、部員をおき事業計画に基づく専門事項の計画、執行を担当する。
 - 総務部 (7名): 事業運営、他部に属しない事項に関すること
 - 教育部 (8名): 園館職員の資質の向上並びに一般に対する普及啓発活動に関すること
 - 安全衛生部 (7名): 園館職員の安全衛生対策などに関すること
 - 情報部 (7名): 情報ネットワーク事業などに関すること
- 種保存委員会: 会長、委員会事務局長など18名で構成する。
- 倫理委員会: 会長、副会長、ブロック代表理事など10名で構成する。
- 情報センター運営委員会: 会長、副会長、ブロック選出の委員など9名で構成する。
- 飼育技師資格認定委員会: 会長、委員6名、事務局8名(教育部員が兼務)で構成する。
- 飼育ハンドブック編集委員会: 会長、教育部担当理事、教育部員など12名で構成する。
- 動物園水族館雑誌編集委員会: 会長、動物園・水族館関係者、学識経験者などで構成する。
- 野生動物保護募金選考会議: 副会長、運営委員会及び種保存委員会の代表など7名で構成する。

5. 諮問機関

- 名誉顧問 (1名): 特に永年にわたり当協会の運営に特別の功労があった者で、理事会の総意をもって承認した者。
- 顧問 (2名): 専門知識を有し、理事会が推薦した者。
- 会友 (85名): 園館長歴10年以上、及び特別な功労のあった者で、理事会が承認した者。

6. 監査機関

- 監事 (2名): 動物園から1名、水族館から1名就任。

4. 正会員数 動物園89園 水族館67館 計156園館 (平成22年6月1日現在)

5. 所管官庁 文部科学省生涯学習政策局

6. 設立の目的 日本における動物園、水族館等の関係者の協力により動物園水族館事業の発展振興を
(定款第3条) 図り、もって文化の発展と科学技術の振興に寄与することを目的とする。

7. 実施する事業 (定款第4条)

- (1) 動物園・水族館についての調査研究
- (2) 研究会および講習会等の開催
- (3) 野生動物および水族の蒐集に関する調整と自然保護への協力
- (4) 会報等定期刊行物および学術図書の出版
- (5) 博物館関係団体との協力
- (6) 動物園・水族館および動物・水族の保護増殖に関する技術・情報の一般への啓蒙普及
- (7) その他目的を達成するために必要な事業

8. 活動の経過

- ・昭和14(1939)年11月17日、任意団体として発足した。当時の会員は仙台、上野、甲府、名古屋、京都、大阪、阪神、宝塚、神戸、栗林、到津、福岡、熊本、鹿児島、昌慶苑、台北の16動物園と、中ノ島、堺、阪神の3水族館、計19園館。
- ・昭和19年、20年は第二次世界大戦により活動を中断した。
- ・昭和21年5月、戦後初めての総会(会員は12園館)を開催、戦後の復興対策を協議した。
- ・再開後の活動
 - ①情報の交換と動物の収集斡旋
 - ②月報、年報の発行
 - ③昭和28年に獣医ならびに飼育技術者研究会(現在の動物園技術者研究会)を発足
 - ④昭和31年に水族館技術者研究会を発足
 - ⑤昭和32年に動物繁殖表彰を制定
 - ⑥昭和33年に技術研究表彰を制定
 - ⑦昭和34年から学術雑誌「動物園水族館雑誌」の発行を開始
- ・社団法人の認可 わが国の動物園・水族館の発展は目覚ましく、昭和40(1965)年には動物園55、水族館33、計88園館となり、協会の社会的地位を確立するために、その年の11月22日付で文部省社会教育局(現在は文部科学省生涯学習政策局)所管の社団法人となる。
- ・組織の強化 事務の円滑な運営を図って全国を6ブロックに分け、ブロック代表理事制を採用し、昭和44年からは運営委員会を設け、各部が事務局専門事務を分担することとした。平成6年度に国際交流部を設置して5部会となった。平成18年度に運営委員会の編成を変え、4部会とし、併せて、種保存委員会の組織も再編した。

・技術者の養成

- ①昭和46年から飼育技師資格認定試験を実施し、その受験のためのテキストを発行している。
- ②昭和49年から編集・発行の飼育ハンドブックは、動物園・水族館編各5分冊および資料編の合計11冊の構成となっている。現在までに動物園・水族館編各4分冊、資料編—繁殖関係資料の改訂を行ない、第5集を発行予定である。

・事業の伸展

- ①昭和49年に公布された「動物の保護および管理に関する法律」に基づく「展示動物等の飼養及び保管に関する基準」の策定に協力し、その解説書を発行した。
- ②昭和49年10月、国際動物園長連盟第28回総会(20カ国、60名参加)を主催した。
- ③昭和51年から全国規模で動物愛護の標語を募集し、動物愛護週間の中央行事の一環として優秀作品を表彰するとともに、動物愛護思想の普及に努めている。

・種の保存のために

- ①昭和55(1980)年11月ワシントン条約がわが国で発効したが、当協会は昭和56年以来、該当動物の鑑定緊急保護動物の保護収容等に協力している。
- ②飼育下の希少動物の増殖を図るため、種の保存計画の策定を目指して、昭和59年からそれらの動物の国内血統登録の事業の推進拡大を図っている。
- ③昭和61年に『古賀賞』を制定し、飼育下の野生動物の繁殖についての優れた業績に対して年次総会時に授与している。
- ④昭和63(1988)年に理事会の補助機関として「種保存委員会」を発足させ、希少動物の保護増殖事業を国際的な連携で取り組むべく態勢を整えた。
- ⑤同時に、世界自然保護連合(IUCN)種保存委員会(SSC)の下にある保全繁殖専門家集団(CBSG)との連携を強め、国際的な繋がりをもって種の保存活動を展開している。
なお、当協会は昭和47(1972)年にIUCNのメンバーとなっている。
- ⑥平成18年度に種保存に関する環境省との連絡会議を設立し、定期的に会議を開催することとした。
- ⑦平成20年度から21年度にかけて、環境省の進めている種の絶滅回避と種内の遺伝的多様性の維持に有効な生息域外保全の取組みに反映するモデル事業を実施した。
- ⑧平成21年度から種保存対象種の中から選定した優先種の繁殖に寄与する諸活動に、助成(限度額100万円)を開始した。

・動物情報センター

- ①昭和57年度通常総会で、動物園開園100年を記念する動物情報センターを設置し、募金による基金の果実で運営する構想が満場一致で可決され、募金目標を1億円とする募金活動を昭和59年度から開始した。平成19年度に目標額1億円の基金積立が達成した。
- ②動物情報センター事業の推移により、昭和62年2月、事務所を東京都台東区上野2-13-2パークサイドビル7階へ移転、さらに平成6年8月、台東区台東4-23-10ヴェラハイツ御徒町402へ移転し、平成7年4月にコンピュータ機器を導入した。

・倫理要綱の制定

二十一世紀に相応しい動物園・水族館の姿を志向し、昭和63年2月29日、新たに日本動物園水族館協会倫理要綱を制定した。この要綱は種の保存と生命尊重の教育とに取り組む、協会の決意を内外に明らかにしたものである。

・ 総裁の推戴 昭和63年5月25日、秋篠宮文仁親王殿下を協会の総裁に推戴した。

・ 事務局の強化 平成3年、定款を変更して専務理事（有給）を置いた。

・ 国際交流

①平成2（1990）年5月13日、中国動物園協会との友好関係を締結する協定を調印した。

②平成5（1993）年、世界動物園機構（WZO、現在の世界動物園水族館協会 WAZA）に、協会組織会員として加盟した。同機構は同年9月、「世界動物園保全戦略」を、2005年には「世界動物園水族館保全戦略－Building a Future for Wildlife－」を発表した。同保全戦略の日本語版を運営委員会国際交流部が策定した。

③平成10年10月のCBSG横浜会議を共催、第53回WZO名古屋年次総会を後援した。

④平成12年5月の総会に友好提携10周年を記念して中国動物園協会の代表団が来日した。

⑤平成14年3月アフガニスタン・カブール動物園支援の募金を行った。

⑥平成18年9月インドネシア・ゲンビラロカ動物園支援の募金を行った。

⑦平成19年5月の総会にWAZA会長・CBSG議長・ISIS代表など海外機関関係者を招聘した。

⑧平成20年6月個体群管理研修をCBSG・ISISの関係者を講師に招聘し、東京と大阪で実施した。

平成21年度より、ブロック毎に実施。

⑨平成21年7月WAZA（会長、専務理事）とJAZA（副会長、情報部担当理事、専務理事）とで、イルカ問題について、成田で話し合いをもった。

・ 情報ネットワーク事業

①平成8年、情報ネットワーク化検討委員会を設置し、ネットワークのあり方について検討を開始し、平成9年5月の協議会で検討委員会の提案書の内容が報告された。

②平成9年～10年、文部省から動物園水族館活用ネットワーク推進事業を委嘱された。

③平成9年度に協会ホームページ[公開用システム]の運用を開始し、平成10年度に[非公開用システム]の運用を開始した。

④平成13年より、全国生涯学習フェスティバル（13年山形、14年金沢、15年沖縄、16年愛媛、17年鳥取、18年茨城、19年岡山、20年福島、21年埼玉）に参加し、当協会の事業等をPRし、参加型体験学習を行った。平成22年からは、全国生涯学習フォーラムとして開催され（22年高知、23年岩手開催予定）、同様に参加している。

・ 野生動物保護活動

①平成9年のナホトカ号重油流出事故に伴う海鳥保護の取組みを契機に、「非常災害等緊急対策要綱」を定め、動物の救護・保護活動を行うこととした。

②平成12年から野生動物保護の募金を開始、平成13年度から助成事業（1件30万円以内）を開始した。

③両生類などのツボカビフリー化を実現するため、国立感染症研究所と共同でツボカビ症調査研究事業を実施した。

④2008国際カエル年事業のためJAZA実行委員会を設立。キャンペーンポスターを作製し、両生類関連イベント、ワークショップ、シンポジウムなどを実施したほか、CBSGへ100万円寄付した。

○北海道ブロック (動物園 5、水族館 5)

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1. 札幌市円山動物園 | 1. 小樽水族館 |
| 2. 旭川市旭山動物園 | 2. 稚内市立ノシャップ寒流水族館 |
| 3. おびひろ動物園 | 3. サンピアザ水族館 |
| 4. のぼりべつクマ牧場 | 4. 登別マリパークニクス |
| 5. 釧路市動物園 | 5. 千歳サケのふるさと館 |

○関東東北ブロック (動物園 28、水族館 22)

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 6. 秋田市大森山動物園 | 6. 青森県営浅虫水族館 |
| 7. 盛岡市動物公園 | 7. 男鹿水族館GAO |
| 8. 仙台市八木山動物公園 | 8. マリンピア松島水族館 |
| 9. 宇都宮動物園 | 9. 鶴岡市立加茂水族館 |
| 10. 那須どうぶつ王国 | 10. ふくしま海洋科学館 |
| 11. 桐生が岡動物園 | 11. 新潟市水族館マリンピア日本海 |
| 12. 群馬サファリパーク | 12. 上越市立水族博物館 |
| 13. 日立市かみね動物園 | 13. 長岡市寺泊水族博物館 |
| 14. 埼玉県大宮公園小動物園 | 14. 栃木県なかがわ水遊園 |
| 15. 埼玉県こども動物自然公園管理事務所 | 15. アクアワールド茨城県大洗水族館 |
| 16. 東武動物公園 | 16. 犬吠埼マリパーク |
| 17. 狭山市立智光山公園こども動物園 | 17. 鴨川シーワールド |
| 18. 東京都恩賜上野動物園 | 18. さいたま水族館 |
| 19. 東京都多摩動物公園 | 19. サンシャイン国際水族館 |
| 20. 井の頭自然文化園 | 20. 東京都葛西臨海水族園 |
| 21. 東京都立大島公園 | 21. しながわ水族館 |
| 22. 羽村市動物公園 | 22. よみうりランドアシカ館 |
| 23. 江戸川区自然動物園 | 23. エプソン品川アクアスタジアム |
| 24. 足立区生物園 | 24. 京急油壺マリパーク |
| 25. 千葉市動物公園 | 25. 新江ノ島水族館 |
| 26. 市川市動植物園 | 26. 横浜・八景島シーパラダイス |
| 27. 市原ぞうの国 | 27. 山梨県立富士湧水の里水族館 |
| 28. 川崎市夢見ヶ崎動物公園 | |
| 29. 横浜市立野毛山動物園 | |
| 30. 横浜市立金沢動物園 | |
| 31. 横浜市立よこはま動物園 | |
| 32. 小田原動物園 | |
| 33. 甲府市遊亀公園附属動物園 | |

○中部ブロック (動物園 21、水族館 13)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 34. 富山市ファミリーパーク | 28. 伊豆三津シーパラダイス |
| 35. 高岡古城公園動物園 | 29. 下田海中水族館 |
| 36. いしかわ動物園 | 30. 伊豆アンディランド |

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 37. 鯖江市西山動物園 | 31. 東海大学海洋科学博物館 |
| 38. 小諸市動物園 | 32. 魚津水族館 |
| 39. 須坂市動物園 | 33. のとじま臨海公園水族館 |
| 40. 長野市茶臼山動物園 | 34. 越前松島水族館 |
| 41. 飯田市立動物園 | 35. 蓼科アミューズメント水族館 |
| 42. 市立大町山岳博物館 | 36. 岐阜県世界淡水魚園水族館 |
| 43. 三島市楽寿園 | 37. 蒲郡市竹島水族館 |
| 44. 富士自然動物公園 | 38. 南知多ビーチランド |
| 45. 伊豆アニマルキングダム | 39. 碧南海浜水族館 |
| 46. 伊豆シャボテン公園 | 40. 名古屋港水族館 |
| 47. 熱川バナナ・ワニ園 | |
| 48. 静岡市立日本平動物園 | |
| 49. 浜松市動物園 | |
| 50. 豊橋総合動植物公園 | |
| 51. 名古屋市東山動物園 | |
| 52. 日本モンキーセンター | |
| 53. 豊田市鞍ヶ池公園 | |
| 54. 岡崎市東公園動物園 | |

○近畿ブロック（動物園 11、水族館 13）

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| 55. 京都市動物園 | 41. 滋賀県立琵琶湖博物館 |
| 56. 和歌山公園動物園 | 42. 宮津エネルギー研究所水族館 |
| 57. アドベンチャーワールド | 43. 鳥羽水族館 |
| 58. 橿原市昆虫館 | 44. 志摩マリンランド |
| 59. みさき公園 | 45. 二見シーパラダイス |
| 60. 大阪市天王寺動植物公園事務所 | 46. 京都大学白浜水族館 |
| 61. 五月山動物園 | 47. 太地町立くじらの博物館 |
| 62. 神戸市立王子動物園 | 48. 串本海中公園センター |
| 63. 姫路市立動物園 | 49. 大阪・海遊館 |
| 64. 姫路セントラルパーク | 50. 水道記念館 |
| 65. 淡路ファームパーク イングランドの丘動物園 | 51. 神戸市立須磨海浜水族園 |
| | 52. 城崎マリンワールド |
| | 53. 姫路市立水族館 |

○中国四国ブロック（動物園 11、水族館 8）

- | | |
|---------------------|------------------|
| 66. 池田動物園 | 54. 島根県立しまね海洋館 |
| 67. 林原類人猿研究センター | 55. 島根県立宍道湖自然館 |
| 68. とくしま動物園 | 56. 市立玉野海洋博物館 |
| 69. 愛媛県立とべ動物園 | 57. 桂浜水族館 |
| 70. わんぱーくこうちアニマルランド | 58. 高知県立足摺海洋館 |
| 71. 高知県立のいち動物公園 | 59. 虹の森公園おさかな館 |
| 72. 広島市安佐動物公園 | 60. 宮島水族館 |
| 73. 福山市立動物園 | 61. 下関市立しものせき水族館 |

- 74. 周南市徳山動物園
- 75. 秋吉台自然動物公園
- 76. 宇部市常盤遊園協会

○九州沖縄ブロック（動物園 13、水族館 6）

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 77. 到津の森公園 | 62. 海の中道海洋生態科学館 |
| 78. 福岡市動物園 | 63. 長崎ペンギン水族館 |
| 79. 大牟田市動物園 | 64. 大分マリンパレス水族館「うみたまご」 |
| 80. 久留米市鳥類センター | 65. 天草いるかワールド |
| 81. 海の中道海浜公園動物の森 | 66. かごしま水族館 |
| 82. 佐世保市亜熱帯動植物園 | 67. 沖縄美ら海水族館 |
| 83. 長崎バイオパーク | |
| 84. 九州自然動物公園 | |
| 85. 熊本市動植物園 | |
| 86. 宮崎市フェニックス自然動物園 | |
| 87. 鹿児島市平川動物公園 | |
| 88. 沖縄こども未来ゾーン | |
| 89. ネオ・パーク オキナワ | |

第 2 . 事 業 の 総 括

(平成22年度計画)

I 公益目的事業

第 1 . 調 査 ・ 研 究 に 関 す る 事 業	826万円
1. 調査に関する事業	239万円
(1) 飼育技術に関する調査研究（宿題調査）	
(2) 受託調査	
(3) その他の調査	
(4) 年報・月報の発行	
2. 研究に関する事業	587万円
(1) 研究会の開催	
① 全国研究会・会議	
② ブロック内研究会	
(2) 動物園水族館雑誌の発行	
(3) 研究成果に関する表彰	
(4) 安全衛生対策研究	
第 2 . 教 育 活 動 ・ 普 及 啓 発 に 関 す る 事 業	1,919万円
1. 教育活動に関する事業	656万円
(1) 研修会の開催	
① 全国研修会	
② ブロック内研修会	
(2) 飼育技師資格認定試験の実施	

(3) 新・飼育ハンドブックの発行	
(4) 海外研修	
2. 普及啓発に関する事業	1,263万円
(1) 事業概要の発行	
(2) 動物愛護週間行事等の実施	
(3) まなびピア・COP10への出展	
(4) 情報ネットワーク事業	
(5) 広報事業	
第3. 種の保存に関する事業	3,896万円
1. 種保存計画の推進	270万円
(1) 種保存会議の開催	
(2) 血統登録・繁殖計画	
(3) 個体群管理研修の開催	
2. 海外団体との協力	329万円
(1) CBSG・ISIS等との連携	
(2) WAZA・SEAZA等との連携	
(3) 世界保全戦略	
3. 野生動物保全に関する事業	10万円
4. 野生動物保護募金事業	450万円
(1) 野生動物保護募金活動	
(2) 野生動物保護活動助成事業	
(3) 優先種等助成事業	
(4) 募金箱補修等	
5. 委託保全事業	2,837万円
(1) ワシントン条約関連任意放棄動物の保護事業	
(2) 生息域外保全モデル受託事業	
第4. 共通経費（公益目的分）	1,637万円
1. 人件費、修繕費、委託費、事務所費	
	公益目的事業 計 8,278万円
II 法人の管理	
第I 法人管理	721万円
1. 会員管理	
2. 運営管理に関する会議の開催	
(1) 総会、理事会、運営委員会	
(2) 園館館長会議、事務主任者会議	
(3) 各種団体加盟	
(4) 法人管理事務経費	
第2 共通経費（法人管理分）	1,360万円
	法人管理 計 2,081万円
	合 計 10,359万円

第3. 役員及び専門委員

1. 役員

(平成22年6月1日現在)

ブロック	役職名	氏名	所 属	摘 要
北海道	理事	酒井裕司	札幌市円山動物園	
〃	〃	小田 誠	小樽水族館	ブロック代表理事
関東東北	理事	川上茂久	群馬サファリパーク	
〃	理事(副会長)	土居利光	東京都多摩動物公園	
〃	理事	増井光子	横浜市立よこはま動物園	
〃	〃	鈴木倫明	新潟市水族館マリニピア日本海	ブロック代表理事
〃	理事(副会長)	荒井一利	鴨川シーワールド	
中部	理事(会長)	山本茂行	富山市ファミリーパーク	
〃	理事	小林弘志	名古屋市東山動物園長	ブロック代表理事
〃	〃	長谷川修平	南知多ビーチランド	
近畿	理事	長瀬健二郎	大阪市天王寺動植物公園事務所	
〃	〃	西田清徳	大阪・海遊館	ブロック代表理事
中国四国	理事	絹田俊和	高知県立のいち動物公園	ブロック代表理事
〃	〃	砂田 忠	島根県立しまね海洋水族館	
九州沖縄	理事	山口智士	長崎バイオパーク	
〃	〃	荻野洗太郎	かごしま水族館	ブロック代表理事
(事務局)	理事(専務理事)	北村健一	(社)日本動物園水族館協会	
計	17名			
	監 事	長谷川 淳 一	京都市動物園	
	〃	鈴木 隆 史	越前松島水族館	
計	2名			

2. 運営委員 (◎担当理事、○部長) (22. 6. 1. 現在)

(1) 総務部

- ◎小田 誠 (小樽水族館長) 帝釈 元 (鳥羽水族館次長)
○田畑 直樹 (東京都恩賜上野動物園副園長) 砂田 忠 (鳥根県立しまね海洋館長)
毛利 昌宏 (マリニピア松島水族館総務部長) 田中 平 (大分マリーナパレス水族館長)
黒邊 雅実 (名古屋市東山動物園主幹)

(2) 教育部

- ◎西田 清徳 (大阪・海遊館長) 勝俣 浩 (鴨川シーワールド海獣展示二課長)
○植田 育男 (新江ノ島水族館飼育展示グループ専門技監) 石原 祐司 (富山市ファミリーパーク動物課長)
生駒 忍 (釧路市動物園管理飼育展示担当) 榊原 安昭 (大阪市天王寺動植物公園事務所飼育担当課長)
堀 秀正 (東京都恩賜上野動物園飼育展示係長) 佐藤 圭一 (沖縄美ら海水族館魚類課
深海系係長兼教育普及係長)

(3) 安全衛生部

- ◎小林 弘志 (名古屋市東山動物園長) 長谷川一宏 (鳥羽水族館飼育研究部課長)
○福田 豊 (東京都恩賜上野動物園飼育展示課長) 南 心司 (広島市安佐動物公園飼育展示課長)
向井 猛 (札幌市円山動物園飼育展示一係長) 高田真理子 (海の中道海浜公園動物の森専門役)
片井 信之 (富士自然動物公園動物研究所長)

(4) 情報部

- ◎川上 茂久 (群馬サファリーパーク園長) 高橋 宏之 (千葉市動物公園副主査)
○櫻井 博 (東京都恩賜上野動物園飼育展示課長補佐兼調整係長) 栗田 正徳 (名古屋港水族館飼育展示第一課長補佐)
廣田 敦司 (東京都恩賜上野動物園飼育展示課調整係) 高見 一利 (大阪市天王寺動植物公園事務所飼育担当係長)
富田 恭正 (井の頭自然文化園副園長)

3. 種保存委員 (22. 6. 1. 現在)

- 委員長 (会長) 山本 茂行 (富山市ファミリーパーク園長)
事務局長 (担当理事) 長谷川修平 (南知多ビーチランド館長)
総務委員 (事務局員) 小松 守 (秋田市大森山動物園長)
類別委員 (事務局員) 橋川 央 (名古屋市東山動物園副園長)
類別委員 (事務局員) 桑原 一司 (広島市安佐動物公園副園長)
保全委員 (事務局員) 成島 悦雄 (井の頭自然文化園長)
保全委員 (事務局員) 岩田 知彦 (海の中道海洋生態科学館展示部海洋動物課長)
委員 (類別委員) 橋川 央 (名古屋市東山動物園副園長・有袋類)
" 永井 清 (東京都多摩動物公園副園長兼飼育展示課長・霊長類)
" 林 輝昭 (アドベンチャーワールド園長・食肉類)
" 勝俣 浩 (鴨川シーワールド海獣展示二課長・海獣類)
" 大津 晴男 (広島市安佐動物公園種の保存繁殖担当課長・有蹄類)
" 坂東 元 (旭川市旭山動物園長・猛禽類)
" 坂本 和弘 (東京都葛西臨海水族園副園長・ペンギン類)
" 高見 一利 (大阪市天王寺動植物公園事務所飼育担当係長・コウノトリ, キジ, ツル類)
" 高木 嘉彦 (埼玉県こども動物自然公園管理事務所
動物ふれあい課診療係長・小型鳥類)
" 桑原 一司 (広島市安佐動物公園副園長・両生, 爬虫類)
" 池谷 幸樹 (岐阜県世界淡水魚園水族館展示飼育部課長・魚類)
" (技術委員) 竹田 正人 (大阪市天王寺動植物公園事務所飼育担当課長代理・技術部会)

4. 倫理委員

(22. 6. 1. 現在)

委員長 (会長)	山本 茂行 (富山市ファミリーパーク園長)
副委員長 (副会長)	土居 利光 (東京都多摩動物公園長)
副委員長 (副会長)	荒井 一利 (鴨川シーワールド館長)
委員	小田 誠 (北海道ブロック代表理事：運営委員会総務部担当理事兼務・小樽水族館長)
〃	鈴木 倫明 (関東東北ブロック代表理事：新潟市水族館マリニピア日本海館長)
〃	小林 弘志 (中部ブロック代表理事：名古屋市東山動物園長)
〃	西田 清徳 (近畿ブロック代表理事：大阪・海遊館長)
〃	絹田 俊和 (中国四国ブロック代表理事：高知県立のいち動物公園長)
〃	荻野洗太郎 (九州沖縄ブロック代表理事：かごしま水族館長)
〃	北村 健一 (日本動物園水族館協会専務理事)

5. 情報センター運営委員

委員長 (会長)	山本 茂行 (富山市ファミリーパーク園長)
副委員長 (副会長)	土居 利光 (東京都多摩動物公園長)
副委員長 (副会長)	荒井 一利 (鴨川シーワールド館長)
委員	小田 誠 (北海道ブロック代表理事：運営委員会総務部担当理事兼務・小樽水族館長)
〃	鈴木 倫明 (関東東北ブロック代表理事：新潟市水族館マリニピア日本海館長)
〃	小林 弘志 (中部ブロック代表理事：名古屋市東山動物園長)
〃	西田 清徳 (近畿ブロック代表理事：大阪・海遊館長)
〃	絹田 俊和 (中国四国ブロック代表理事：高知県立のいち動物公園長)
〃	荻野洗太郎 (九州沖縄ブロック代表理事：かごしま水族館長)

6. 飼育技師資格認定委員

(22. 6. 1. 現在)

委員長	山本 茂行 (会長・富山市ファミリーパーク園長)
委員	小田 誠 (北海道ブロック代表理事)
〃	鈴木 倫明 (関東東北ブロック代表理事)
〃	小林 弘志 (中部ブロック代表理事)
〃	絹田 俊和 (中国四国ブロック代表理事)
〃	荻野洗太郎 (九州沖縄ブロック代表理事)
委員・事務局長	西田 清徳 (近畿ブロック代表理事・教育部担当理事)
事務局員 (教育部長)	植田 育男 (新江ノ島水族館展示飼育グループ専門技監)
〃 (教育部)	生駒 忍 (釧路市動物園管理飼育展示担当)
〃 (〃)	堀 秀正 (東京都恩賜上野動物園飼育展示係長)
〃 (〃)	勝俣 浩 (鴨川シーワールド海獣展示二課長)
〃 (〃)	石原 祐司 (富山市ファミリーパーク動物課長)
〃 (〃)	柿原 安昭 (大阪市天王寺動植物公園事務所飼育担当課長)
〃 (〃)	佐藤 圭一 (沖縄美ら海水族館魚類課深海系係長兼教育普及係長)

7. 飼育ハンドブック編集委員

(22. 6. 1. 現在)

委員長	山本 茂行 (会長)
-----	------------

委員(教育部担当理事)	西田 清徳 (大阪・海遊館長)
〃 (教育部長)	植田 育男 (新江ノ島水族館展示飼育グループ専門技監)
〃 (教育部)	生駒 忍 (釧路市動物園管理飼育展示担当)
〃 (〃)	堀 秀正 (東京都恩賜上野動物園飼育展示係長)
〃 (〃)	勝俣 浩 (鴨川シーワールド海獣展示二課長)
〃 (〃)	石原 祐司 (富山市ファミリーパーク動物課長)
〃 (〃)	榊原 安昭 (大阪市天王寺動植物公園事務所飼育担当課長)
〃 (〃)	佐藤 圭一 (沖縄美ら海水族館魚類課深海系係長兼教育普及係長)
〃	橋崎 文隆 (東京都恩賜上野動物園)
〃	成島 悦雄 (井の頭自然文化園長)
〃	日橋 一昭 (埼玉県こども動物自然公園管理事務所園長)

8. 動物園水族館雑誌編集委員

(22. 6. 1. 現在)

編集顧問	正 田 陽 一 (東京大学名誉教授)
〃	林 良 博 (東京農業大学教授)
〃	鈴木 克 美 (東海大学名誉教授)
委員長	山 本 茂 行 (会長・富山市ファミリーパーク園長)
委 員	樺 澤 洋 (京急油壺マリニパーク館長)
〃	勝 俣 悦 子 (鴨川シーワールド獣医師)
〃	西 田 清 徳 (大阪・海遊館長)
〃	原 久美子 (横浜市立金沢動物園飼育展示係長)
〃	福 井 大 祐 (旭川市旭山動物園飼育展示係長)
〃	野 田 亜矢子 (広島市安佐動物公園獣医師)

9. 感染症対策委員会

(22. 6. 1. 現在)

委員長	橋 崎 文 隆 (東京都恩賜上野動物園)
副委員長	福 田 豊 (東京都恩賜上野動物園飼育展示課長)
〃	長谷川 一 宏 (鳥羽水族館飼育研究部課長)
〃	高 橋 雅 之 (大阪市天王寺動植物公園管理事務所保健主幹)
委 員	向 井 猛 (札幌市円山動物園飼育一係長)
〃	中 村 彰 (名古屋市東山動物園指導衛生係)
〃	南 心 司 (広島市安佐動物公園飼育展示課長)
〃	高 田 真理子 (海の中道海浜公園動物の森専門役)
〃	寺 沢 文 男 (新江ノ島水族館飼育展示グループ)
〃	香 山 薫 (伊豆三津シーパラダイス飼育マネージャー)

10. ネットワーク委員会

(22. 6. 1現在)

委員長	西 條 正 義 (マリニピア松島水族館長)	関東東北ブロック
委 員	岡 田 尚 憲 (サンピアザ水族館経営企画課副参事)	北海道ブロック
〃	木 村 直 人 (日本モンキーセンター副園長)	中部ブロック
〃	高 見 一 利 (大阪市天王寺動植物公園事務所飼育担当係長)	近畿ブロック
〃	大 丸 秀 士 (広島市安佐動物公園園長)	中国四国ブロック
〃	高 田 浩 二 (海の中道海洋生態科学館長)	九州沖縄ブロック

11. 名誉顧問

元会長 (株)池田動物園長 池田隆政

(22. 6. 1. 現在)

12. 顧問

環境省自然環境局野生生物課長
東京大学名誉教授

正田陽一

(22. 6. 1. 現在)

13. 会友

町重夫	(元姫路市立動物園長)	鮫島 叡	(元神戸市須磨海浜水族園長)
井上喜平治	(元須磨水族館長)	鮫島 正道	(元長崎鼻パーク・キングガーデン園長)
城戸喜治	(元福岡動物園長)	片山 望	(元フェニックス動物園長)
泉幸四郎	(元八瀬水族館長)	稲熊 興助	(元名古屋市東山総合公園事務局長)
本川富也	(元天草海底水族館長)	塩田 昭仁	(元町立宮島水族館長)
小原二郎	(元安佐動物公園長)	原 幸治	(元井の頭自然文化園長)
石内展行	(元上野動物園長・会長)	岩本 保則	(元川崎市夢見ヶ崎動物公園長)
竹田 齊	(元熊本動物園長)	宗近 功	(元千葉市動物公園長)
根本 策夫	(元八木山動物公園長)	墨岡 篤郎	(元浜松市動物園長)
北井 正	(元野毛山動物園長)	牛島 公	(元浜松市動物園長)
廣崎 芳次	(元江ノ島水族館長)	鈴木 克美	(元東海大学海洋科学博物館長)
浅倉 繁春	(元上野動物園長・会長)	鷹野 三忠	(元蓼科ミュージアム水族館長)
玉山 憲栄	(元沖縄こどもの国園長)	鹿島 英佑	(元名古屋市東山動物園長)
高田 泰三	(元屋島山上水族館長)	大内 格之	(元札幌市円山動物園長)
竹内 健	(元秋田県男鹿水族館長)	岡本 泰弘	(元秋吉台自然動物公園長)
中川 志郎	(元上野動物園長・会長)	中川 哲男	(元大阪市天王寺動物園長)
足達 博	(元久留米市鳥類センター園長)	菅谷 博	(元上野動物園長・会長)
吉田 啓正	(元神戸市須磨海浜水族園長)	脇坂征一郎	(元海の中道海洋生態科学館長)
近田 利房	(元豊橋市動物園長)	中村 幸昭	(元鳥羽水族館長)
柚木 進一	(元越前松島水族館長)	栃本 武良	(元姫路市立水族館長)
金田 寿夫	(元札幌市円山動物園長)	徳山 秀雄	(元広尾海洋水族科学館長)
田代 和治	(元上野動物園長・会長)	森 豊	(元(財)日本カモシカセンター)
白井 和夫	(元長崎水族館長)	山田 秀司	(元京都市動物園長)
金森 裕	(元札幌市円山動物園長)	大久保建雄	(元神戸市王子動物園長)
矢島 稔	(元東京都多摩動物公園長)	西村 博之	(元宮津エネルギー研究所水族館長)
及川 浩	(元日立市立かみね動物園長)	北 洋司	(元太地町立くじらの博物館長)
前田 尚	(元下田海中水族館長)	内田 紘臣	(元串本海中公園センター館長)
宮本 克幸	(元わんぱーくこうちアマルランド園長)	石田 戩	(元東京都葛西臨海水族園長)
菅野 浩	(元旭川市旭山動物園長)	松島 光廣	(元登別マリニパークニクス館長)
園田成三郎	(元よみうりランド海水水族館長)	本田 公昭	(元アドベンチャーワールド園長)
加茂 重良	(元徳島市立動物園長)	冨田 三郎	(元姫路市立動物園長)
藤田 信夫	(元秋吉台自然動物公園長)	後藤 達男	(元福山市立動物園長)
林 正大	(元小樽水族館長)	本田 武	(元とくしま動物園長)
菅原 栄喜	(元八木山動物園長)	内田 至	(元名古屋港水族館長)
斎藤 勝	(元上野動物園長)	福本 幸夫	(元広島市安佐動物公園長)
中井 光男	(元宇都宮動物園長)	西 源二郎	(元東海大学海洋科学博物館長)
中島 将行	(元伊豆三津シーパラダイス館長)	山本 康夫	(元いしかわ動物園長)
祖谷 勝紀	(元東京都葛西臨海水族園長)	宮下 実	(元大阪市天王寺動物園長)
小寺 重孝	(元日本モンキーセンター園長)	石川 理	(元神戸市立王子動物園長)
森本 博	(元広島市安佐動物公園長)	辻井 禎	(元志摩マリニランド館長)
内木 幸次	(元のとじま臨海公園水族館長)	小菅 正夫	(元旭川市旭山動物園長)
三宅 理之	(元大阪・海遊館長)	川那部浩哉	(元滋賀県立琵琶湖博物館長)
長谷川達栄	(元寺泊町立水族博物館長)		

(22. 6. 1. 現在)

14. 維持会員 協力会員4、賛助会員45 68ページ参照 (22. 6. 1. 現在)

15. 事務局職員 (22. 6. 1. 現在)

〔参 与〕(非常勤) 富澤 太一、藤河 完治

〔事務局長〕荻須 哲三

〔職 員〕上出 祐子、葛西 峯子、三木 智絵

第4. 総会及び理事会

1. 総会

(1) 平成22年度通常総会

平成22年5月27日、秋吉台自然動物公園（会場：ホテルニュータナカ）において開催した。
〔総会議題〕

- | | |
|--------------------|-------------------|
| ①平成21年度事業報告承認 | ⑨新会友の紹介 |
| ②平成21年度決算報告承認 | ⑩平成23年度以降各種会合開催計画 |
| ③監査報告 | ⑪新公益法人制度への移行 |
| ④平成22年度事業計画承認 | ⑫平成23年度協議会テーマ |
| ⑤平成22年度収支予算承認 | ⑬総会決議 |
| ⑥平成22年度会員区分の報告 | ⑭役員選任の承認 |
| ⑦動物情報センター設置基金の積立承認 | ⑮次期総会開催地紹介 |
| ⑧平成22年度各種表彰の報告 | ⑯その他 |

総会決議

社団法人 日本動物園水族館協会は、総裁 秋篠宮文仁親王殿下のご臨席のもと、「豊富な緑や清澄な水を有する自然に満ちた環境保護都市」山口市において、平成22年度通常総会を開催し、「自然・環境・人間一生涯学習における動物園・水族館の役割」をテーマに掲げ、動物園・水族館が取り組むべき役割や行動について討議した結果、次のことを決議します。

1 環境保全と動物園・水族館

地球規模の環境問題を解決するために世界各国があらゆる努力をしている中、動物園・水族館の将来と生物多様性保全のために、国内外の様々な機関と連携し、調査・研究、環境教育、種の保存事業を推進し、自然と共生していく持続可能な社会の実現とその社会づくりに主体的に参画できる人材の育成に寄与します。

2 教育と動物園・水族館

動物園・水族館の原点である生きている動物の飼育展示の意義と命の大切さを伝えることができる最大かつ身近な機関の一つであることを認識し、命の大切さ、動物との共生、環境保全等について、教育機関、自治体、地域のコミュニティーのみならず、社会教育機関、関係省庁等と連携して、様々な場所における教育活動に寄与します。

3 記念講演・課題講演と動物園・水族館

「カルスト台地のコウモリたち」の記念講演及び生涯学習の課題講演を通じて自然共生思想の普及及び生涯学習の重要性を再認識するとともに動物園・水族館が生きている動物の展示を通じ生涯学習の重要な場として地域社会に貢献できるよう努力します。

4 社会と動物園・水族館

動物園・水族館が実施している種の保存、生涯学習、調査・研究等は現に一般社会から高く評価されていることを関係機関に働きかけ、その社会的使命の重みに鑑み、現状の「動物取扱業者」としての位置づけを再考するよう強く要望します。

同時に、私たちは、日本動物園水族館協会倫理要綱並びに、倫理要綱遵守に関する決議に則り、動物園水族館の社会的使命の実現に向け、尚一層努力していきます。

議事内容等は「平成22年度 理事会・通常総会並びに協議会経過報告」のとおり。

2. 理事会

(1) 平成21年度第一回理事会

平成21年5月27日、秋田市大森山動物園（会場：秋田ビューホテル）において開催した。

(2) 平成21年度中間理事会

平成21年12月1日、東京上野「グリーンパーク」で開催した。

(3) 平成21年度第二回理事会

平成22年2月24日、大阪市天王寺動植物公園事務所「レクチャールーム」で開催した。

(4) 平成22年度第一回理事会

平成22年5月26日、秋吉台自然動物公園「ホテルニュータナカ」で開催した。

第5. 園館長協議会

I 平成22年度協議会

平成22年度園館長協議会は、総会に引続いて平成22年5月28日、秋吉台自然動物公園（会場：ホテルニュータナカ）で開催した。その経過は次のとおりであった。

1. 記念講演

「カルスト台地のコウモリたち」

秋吉台科学博物館名誉館長 庫本 正

2. 講演

「博物館について」

文部科学省大臣官房審議官 川上 伸昭

「佐渡島におけるトキの野生復帰」

環境省大臣官房審議官 渡邊 綱男

「マグロとクジラから食料を考える」

水産庁増殖推進部漁場資源課

生態系保全室長 遠藤 久

3. 課題講演

講演1 「自然と育む豊かな自然」

新江ノ島水族館長 堀 由紀子

講演2 「命を生涯教育するー生と死の展示からー」

広島市安佐動物公園長 大丸 秀士

4. ブロック課題講演

1) 「札幌市円山動物園の新施設・エゾヒグマ館と野生復帰施設について」

札幌市円山動物園飼育展示課飼育展示二係長 山本 秀明

2) 「アクアマリンえっぐ&うおのぞき子ども漁業博物館について」

ふくしま海洋科学館長 安部 義孝

3) 「動物園リニューアルへの取り組み」

日立市かみね動物園長 生江 信孝

4) 「猛獣館299」

静岡市立日本平動物園長 海野 隆至

5) 「以布利センター(高知)の新水槽について」

大阪・海遊館館長 西田 清徳

6) 「新展示施設ペンギン村について」

下関市立しものせき水族館長 石橋 敏章

7) 「鰭脚類の老齢個体収容、繁殖を目指した新施設の整備」

海の中道海洋生態科学館長 高田 浩二

5. 海外出張報告

1) 「CBSG・SEAZA年次総会参加報告」

大阪市天王寺動植物公園事務所飼育担当係長 高見 一利

2) 「WAZA年次総会結果報告」

日動水専務理事 北村 健一

6. ISIS講演

「動物園および水族館の存続におけるISISの役割」 国際種情報システム機構(ISIS) 西本 奏子

第6. 研究発表会等

本協会が行っている研究発表会は、動物園技術者研究会と水族館技術者研究会および海獣技術者研究会が代表的なものであるが、この他に動物園水族館設備会議および各ブロック毎に開催される各種研究会等がある。また、種の保存事業の一環としてゾウ会議を開催している。

平成16年度より、各動物園水族館における教育普及事業の推進を目的として、参加型研修会（ワークショップ）を開催している。

各研究会等での発表事項は次のとおりである。

1. 動物園技術者研究会（第57回）

(1) 日 時 平成21年10月7日(水)～9日(金)

(2) 場 所 長野市茶臼山動物園・長野ホテル犀北館

(3) 出席者 秋篠宮総裁殿下、61園館117名、協力会員1団体2名、副会長1名、研究会事務局2名

(4) 研究発表 1) シンリンオオカミの頻回不動化処置一旭山 2) クロヒゲサキの非定型抗酸菌症について一大牟田 3) エジプトルーセットオオコウモリに多発した *Yersinia pseudotuberculosis* 感染症について一平川 4) ニホンノウサギの豆状嚢尾虫症について一富山 5) オオカンガルーで見られた肺癌2例について一のいち 6) アジアゾウの敗血症の1例一浜松 7) ユキヒョウに見られた上眼瞼一部欠損症について一多摩 8) 皆神山のクロサンショウウオの卵嚢の違いについて一茶臼山 9) ホウシャガメの繁殖一野毛山 10) 飼育下オオワシの繁殖生態と補充卵を利用した個体増殖一旭山 11) ジャイアントパンダのハズバンドリートレーニングによる採血について一南紀 12) マーモセット類におけるクル病の予防と飼育管理一モンキ 13) 大阪市天王寺動植物公園事務所における検疫と健康診断について一天王寺 14) むつ市から上野動物園に導入したニホンザルの検疫一上野 15) テングザルの輸入に際して動物園内で実施した輸入検疫と自主検疫一横浜動 16) テングザルの導入・展示について一横浜動 17) アイアイ飼育施設の問題点と改善について一上野 18) プレーリードッグのガラス展示室の展示改善について一上野 19) アミメキリンの夜間休息について一京都 20) チンパンジー舎改修による行動変化と展示効果について一東山 21) ニシゴリラにみられた吐き戻し行動の抑制の試みについて一モンキ 22) ミナミジサイチョウの繁殖について一埼玉動 23) ホッキョクグマの繁殖に関する一考察一円山 24) チュウゴクオオカミの繁殖について一天王寺 25) フタユビナマケモノの人工哺育について一千葉 26) クロクモザルの人工哺育2例について一海中動 27) シロテテナガザルの人工哺育2例について一のいち

- 28) マサイキリンの人工哺育—日本平 29) ボルネオオランウータンの繁殖と人工哺育について—王子 30) 人工哺育チンパンジーの出産・産後における人の介助について—林原
31) マダガスカルトキの人工育雛について—上野 32) ポニー体験乗馬、体験乗馬ポイントカード制の導入について—安佐

[話題提供] 1) 北米産草食動物に用いた遊具の数例—横金沢 2) カンムリシロムクの死亡原因—横浜動 3) 近隣大学の研究活動への協力について—帯広

[ポスター発表] 1) 環境教育教材として動物園で作成したワークブックについて—円山 2) 新ふれあい動物園開設とその取り組みについて—到津 3) ベンガルトラの動物舎新設と展示の工夫について—東武 4) 大型草食動物の出産日予測の試みについて—とべ 5) コンゴウインコ毛引き改善の取り組み—石川 6) チンパンジーの異常行動改善への試み—多摩 7) ホッキョクグマ緑色化の原因およびその対策について—東山 8) アカカンガルーの足底部の膿瘍の長期治療例について(予報)—大森山 9) 敗血症で死亡したクロサイの1症例について—八木山 10) 野生タンチョウのスラリー貯留槽転落事故について—釧路

(5) 宿題調査報告 実施せず

(6) 懇談事項 1) 次期宿題調査について 2) 研究会事務局からの連絡 3) その他

(7) 次期開催地 平成22年度 神戸市立王子動物園 平成23年度 札幌市円山動物園

(8) 施設見学 長野市茶臼山動物園

2. 水族館技術者研究会(第54回)

(1) 日 時 平成22年2月4日(木)~5日(金)

(2) 場 所 ふくしま海洋科学館・小名浜オーシャンホテル&ゴルフクラブ

(3) 出席者 秋篠宮総裁殿下、52園館95名、会友2名、共同研究者1名、会長、副会長1名、研究会事務局2名

(4) 研究発表 1) 南紀域におけるタコクラゲの出現傾向について—串本 2) 相模湾江の島における潮間帯のフジツボ類の分布—新江水 3) 福島県内で確認されたヨーロッパウナギについて—福島水 4) 過剰指を持つガザミの飼育及び脱皮について—下関 5) 人工タルを用いたオオタルマワシの飼育とその観察について—沖縄水 6) タチウオの擦過傷対策および寄生虫対策について—海中水 7) ミダゾラムおよびプロポフォールを用いたジンベエザメの麻酔について—沖縄水 8) 飼育水槽における亜塩素酸の飼育生物に与える影響と環境改善効果—倉敷芸術科学大学・下関 9) キンギョを使用した色の識別能力の検証—海中水 10) 飼育下におけるオオベソオウムガイとオウムガイの幼体の比較—鳥羽 11) ハタハタの飼育下繁殖について—男鹿水 12) 飼育下におけるギンポの繁殖、卵保護行動について—下関 13) サバ科魚類4種、クロマグロ、スマ、カツオ、ハガツオの初期育成について—葛西水 14) 水槽内で観察されたメガネモチノウオの繁殖行動について—名港水 15) アカシマモエビの繁殖について—城崎 16) ミナミウミサボテンの繁殖および育成について—鹿児島 17) 海浜性昆虫シロスジコガネの展示と繁殖—新江水 18) 相模湾湯河原沖で捕獲された雌のメガマウスザメ—油壺 19) ふくしま海洋科学館におけるシーラカンス調査について—福島水 20) 超音波画像診断によるオオテンジクザメ新生仔の給餌開始時期の判定—沖縄水 21) 東京都内に生息するメダカの遺伝子移入の状況と「東京めだか」保全の取り組み—葛西水

[話題提供] 1) ピラルクの大型個体の輸送例について—鳥羽 2) ウミガメ保護の新たな取り組みについて—名港水 3) タチウオ周年展示における取り組み—大分 4) ハマクマノミを用いて検討した海産仔魚展示の試み—新潟 5) “クマノミ水族館”における繁殖と育成の展示について—東海大 6) 魚津水族館におけるアウトリーチ活動について—魚津

- (5) 宿題調査報告 「サンゴ類の飼育状況調査」 担当：沖縄水
 次期テーマ 「水族館の淡水魚の保全活動に関する調査」 担当：碧南、琵琶湖、岐阜水
- (6) 懇談事項 1) 次期宿題調査について 2) 研究会事務局からの連絡 3) その他
- (7) 次期開催地 平成22年度 岐阜県世界淡水魚園水族館 平成23年度 下関市立しものせき水族館
- (8) 施設見学 ふくしま海洋科学館

3. 海獣技術者研究会（第35回）

- (1) 日 時 平成21年11月25日(水)～26日(木)
- (2) 場 所 大阪・海遊館，ホテル大阪ベイタワー
- (3) 出席者 43園館76名、会友2名、副会長1名、研究会事務局1名、オブザーバー1団体2名
- (4) 研究発表 1) バンドウイルカの緑膿菌症について—南紀 2) カリフォルニアアシカに見られた歯牙疾患について—読売 3) 超音波画像診断によるスナメリ精巢の季節変動モニターについて—海中水 4) ペンギン類における体温測定機能付きマイクロチップによる体温測定の有効性について—海遊館 5) 五島列島で保護されたスナメリと系群解析について—海中水 6) バンドウイルカの胴周囲長と体重との相関—新潟 7) 飽食給餌によるカリフォルニアアシカの吐き戻し行動の抑制—鴨川 8) セイウチにおける異常分娩の一例—南知多 9) マダライルカの初期馴致と飼育経過—くじら 10) 槽内繁殖アメリカマナティーの成長について—沖縄水
 [話題提供] 1) 尾柄部が彎曲して生まれたバンドウイルカの紹介—鹿児島 2) バンドウイルカの船舶輸送について—沖縄水 3) セイウチの音声弁別行動について—鳥羽 4) 歯科用印象剤を用いたセイウチ上顎犬歯（牙）のレプリカ作製について—大分 5) シワハイルカの飼育経過について—沖縄水
- (5) 宿題調査報告 「飼育下鰭脚類における餌料について」 担当：名港水
 次期テーマ 「鰭脚類における健康管理について」 担当：海遊館
- (6) 懇談事項 1) 次期宿題調査について 2) 研究会事務局からの連絡 3) その他
- (7) 次期開催地 平成22年度 島根県立しまね海洋館 平成23年度 関東東北ブロック
- (8) トレーニングセミナー
 講演 「バンドウイルカも錯覚を起こす」 東海大学 村山 司
 話題提供 1) カリフォルニアアシカの水中ショーの維持継続について—下田 2) トラフザメにおける tonic immobility および採血のためのハズバンダリートレーニングについて—海遊館
- (9) 施設見学 大阪・海遊館

4. 動物園水族館設備会議

- (1) 日 時 平成21年10月20日(火)～21日(水)
- (2) 場 所 旭川市旭山動物園・旭山ターミナルホテル
- (3) 出席者 43園館68名、維持会員15団体27名、その他業者等6社8名
- (4) 研究発表 1) ノコギリザメ展示水槽について—小樽水 2) 屋外水路におけるバンドウイルカの展示に関連した設備と操作について—鹿児島 3) 「サンシャイン サンゴ礁水槽」の環境改善について—サンシ 4) 新素材(セラミックモルタル)を用いた施工事例—(株)マツイ 5) セイウチプール強化ガラス破損事故について—城崎 6) 新江ノ島水族館の取水設備について—新江水 7) 補給水低減水処理システムの現状と脱窒システムの開発—大成建設(株) 8) オゾン使用の海水浄化装置交換時の展示水槽黄変着色現象について(事例紹介)—葛西水 9) 省エ

ネ法に基づく現地調査—鴨川 10) 高効率チラー導入による省エネルギー事業—八景島 11)
熱源機器の運用変更による光熱費の削減について—福島水

(5) 宿題調査 「漏水事故について」 担当：下関

次期テーマ 「設備の故障・不具合(仮題)」 担当：新江水

(6) 懇談事項 1) 次回宿題調査について 2) 次期開催地について 3) 会員以外の設備会議参加について 4) その他

(7) 次期開催園 平成22年度 エプソン品川アクアスタジアム 平成23年度 未定

(8) 施設見学 旭川市旭山動物園

5. 日本動物園水族館鯨類会議

(1) 日 時 平成21年9月15日(火)

(2) 場 所 新江ノ島水族館・なぎさの体験学習館

(3) 出席者 31園館49名、関係機関4団体7名

(4) 議 題 1) 第61回国際捕鯨委員会 (IWC) 年次総会の結果について 2) 最近の鯨類を取り巻く問題 3) 水産庁への要望 4) その他

6. 第19回ゾウ会議

(1) 日 時 平成21年10月20日(火)～21日(水)

(2) 場 所 東京都恩賜上野動物園・動物園ホール

(3) 出席者 48園館85名

(4) 研究発表 1) アフリカゾウにみられた爪の異常とその対処法—多摩 2) アジアゾウ導入後の足の手入れ—沖繩こ 3) ターゲットトレーニングを利用したアジアゾウの蹄の治療について—千葉 4) 天王寺動物園におけるアジアゾウの足の手入れについて—天王寺 5) 当園におけるインドゾウの足のケアの一例—横浜動 6) アジアゾウにおける日常の蹄の手入れと治療について—岡崎動 7) 雄ゾウ「ダンボ」の爪・足裏膿瘍とその治療及び死亡までの経過と死因について—茶臼山 8) 起立不能となったインドゾウ「オウジ」の現状について—王子 9) 採精を目的としたアフリカゾウの前立腺マッサージについて—八木山 10) アフリカゾウの採血を目的としたターゲットトレーニングと採血者の育成—東山 11) アジアゾウの夜間行動観察～第一報～—京都 12) アフリカゾウの繁殖と糞・問題行動について—とべ 13) 新ゾウ舎への引越しについて—福岡 14) アフリカゾウ共同繁殖の取り組み I アフリカゾウ・アイの搬出報告—多摩 15) アフリカゾウ共同繁殖の取り組み II アフリカゾウ アイ<♀27歳>導入後の経過—群馬 16) アジアゾウとポニーにおけるスーダングラスの消化率比較—フェニ 17) ゾウ国内飼育下個体群の未来予測—天王寺

(5) アンケート調査結果報告 1) 四肢管理について—上野 2) 危険事例について—上野 3) 施設改修について—上野

(6) 講 演 「動物園でのゾウの繁殖例が少ない理由を考える」 楠田哲士 (岐阜大学応用生物科学部)

(7) 懇談事項 1) GEMP報告—群馬・川上 2) 合同繁殖検討委員会報告 3) 京都大学DNAサンプル依頼 4) その他

(8) 次期開催地 平成22年度 京都市動物園

(9) 施設見学 東京都恩賜上野動物園

7. 参加型研修会(ワークショップ)

(1)動物園—参加型研修会(ワークショップ)

- 1) 日 時 平成21年11月17日(火)、18日(水)
- 2) 場 所 広島市安佐動物公園および広島市青少年野外活動センター・こども村
- 3) 出席者 19園館27名、教育部1名
- 4) テーマ 環境教育プログラム(プロジェクト・ワイルド)を利用した参加型・体験型環境教育
- 5) 内 容 環境教育について学び、環境保全活動を行うことで、人間が野生動物と共存し、地球環境に良い影響を与えることを目的とするプロジェクト・ワイルド(PW)という環境教育プログラムを体験し、さらにお互いに実践して講評しあった。
- 6) 講 演 「プログラムの基礎知識と指導法」(NPO法人里山倶楽部理事 新田章伸)
「動物園でのPW利用について」(広島市安佐動物公園園長 大丸秀士)

(2)水族館参加型研修会(ワークショップ)

- 1) 日 時 平成22年1月21日(木)、22日(金)
- 2) 場 所 碧南海浜水族館・碧南市臨海体育館第2体育室
- 3) 出席者 25園館30名、教育部1名、ファシリテーター：千葉県立中央博物館・林 浩二、ハンズ・オン プランニング・染川香澄
- 4) テーマ 「つなぐ」教育プログラムの開発
- 5) 内 容 利用者の様々な興味や関心、思い込みなどバラバラな知識をつなぐための教育プログラムの企画・立案・発表し、お互いのプログラムに対し意見交換を行った。教育プログラムを作成し、改良していく過程を経験することで研修参加者のスキルアップを目指し、教育プログラムを開発する能力を身につけることを目的とした。

第 7 . 各 種 講 習 会 等

1. 動物園飼育係研修会

ブロック別	開催場所	開催年月日	参加者	補助金	備 考
北海道	釧 路	21. 11. 17~18	8園館19名	20,000円	※水族館と合同 *施設安全管理担当者会議と合同
関東東北	野毛山	22. 2. 2	15園館31名	20,000円	
中 部	浜 松	22. 2. 25~26	19園館26名	20,000円	※水族館と合同
近 畿	淡 路	21. 6. 24	8園館21名	20,000円	
中国四国	福 山	22. 2. 2~ 3	9園館26名	20,000円	
九州沖縄	佐世保	22. 1. 27~28	12園館32名	40,000円	※水族館と合同

2. 水族館飼育係研修会

ブロック別	開催場所	開催年月日	参加者	補助金	備 考
北海道	ニクス	21. 6. 24~25	10園館15名	20,000円	※動物園と合同
関東東北	新江水	22. 1. 29	15園館33名	20,000円	
中 部	蓼 科	21. 6. 25~26	23園館30名	20,000円	※動物園と合同

ブロック別	開催場所	開催年月日	参加者	補助金	備考
近畿	鳥羽	21. 6. 1～2	13園館33名	20,000円	
中国四国	お魚館	22. 2. 24～25	8園館16名	20,000円	

3. 事務主任者会議

ブロック別	開催場所	開催年月日	参加者	補助金	備考
関東東北	東武	21. 10. 21～22	28園館39名	40,000円	※北海道ブロックと合同
中部	東山	21. 11. 18～19	15園館18名	20,000円	
近畿	二見	21. 10. 22	14園館21名	20,000円	
中国四国	宍道湖	21. 6. 23～24	12園館12名	20,000円	
九州沖縄	平川	21. 10. 15～16	15園館18名	20,000円	

4. その他の会議

(1) ブロック園館長会議

ブロック別	開催場所	開催年月日	参加者	備考
北海道	小樽水	21. 4. 15～16	10園館15名	
〃	帯広	21. 11. 24～25	12園館12名	
関東東北	新潟	21. 10. 22～23	36園館42名	
〃	群馬	22. 2. 18～19	40園館40名	
中部	大町	21. 10. 28～29	23園館24名	
〃	岐阜水	22. 2. 1～2	23園館26名	
近畿	みさき	21. 9. 9～10	22園館28名	
〃	くじら	22. 2. 17～18	21園館28名	
中国四国	お魚館	21. 9. 2～3	19園館20名	
〃	下関	22. 2. 9～10	20園館24名	
九州沖縄	大牟田	21. 4. 15～16	18園館21名	
〃	長ペン	21. 12. 11～12	8園館21名	

(2) ブロック動物園技術者研究会

ブロック別	開催場所	開催年月日	参加者	備考
関東東北	多摩	21. 5. 21	25園館58名	
〃	市原	21. 9. 10～11	27園館48名	
〃	千葉	22. 1. 20	23園館45名	
近畿	姫セン	21. 10. 15	10園館19名	
九州沖縄	熊本	22. 2. 18～19	15園館41名	※水族館と合同

(3) ブロック水族館技術者研究会

ブロック別	開催場所	開催年月日	参加者	備考
関東東北	大洗	21. 11. 13～14	18園館30名	

(4) その他のブロック会議

ブロック別	開催場所	開催年月日	参加者	備考
北海道	釧路	21. 11. 17～18	8園館19名	施設安全管理担当者会議 ※動・水飼育係研修会と合同
中部	シャボ	21. 6. 10～11	12園館17名	獣医研究会

ブロック別	開催場所	開催年月日	参加者	備考
中 部	石 川	21. 9. 9～10	15園館18名	獣医研究会
"	東 山	21. 12. 9～10	12園館21名	獣医研究会
"	名港水	22. 3. 10～11	12園館18名	獣医研究会
近 畿	王 子	21. 7. 8	14園館32名	臨床研究会

(5) ブロック個体群管理研修会の実施

ブロック別	開催場所	開催年月日	参加者	備考
北海道	円 山	21. 10. 23～24	9名	
関東東北	埼玉動	21. 10. 20～21	16名	
中 部	東 山	21. 9. 17～18	8名	
近 畿	天王寺	21. 10. 1～2	18名	
中国四国	安 佐	21. 9. 28～30	11名	
九州沖縄	熊 本	22. 10. 16～17	8名	

5. 地域収集計画勉強会の開催

- (1) 内 容 地域収集計画についての基本的な考え方と具体的方法の習得、先進事例からのフィードバック
- (2) 日時・場所
 ①平成22年1月18日～19日(大阪:天王寺動物園)
 ②平成22年1月20日～21日(東京:上野動物園)
- (3) 共 催 財団法人東京動物園協会、大阪市天王寺動植物公園、社団法人日本動物園水族館協会
- (4) 講 師 Mr. Chris Hibbard-ASMP(The Australasian Species Management Program) Manager、他
- (5) 対 象 種保存委員会類別委員、種別調整者、日本動物園水族館協会加盟施設職員、国内希少動物域外保全関係者、その他

第 8 . 運営委員会の活動

1. 会 議

- (1) 運営委員会各部担当理事・部長ならびに種保存委員会事務局長との合同会議開催を平成21年11月30日開催し、各部の業務分担報告及び事業計画を決定した。
- (2) 各部は、年数回の部会を開催し、担当業務の推進を図った。

2. 各部会開催状況

部 会	開 催 地	開催日	主な内容
総務部	日動水協事務局	21. 11. 29	事業計画の現状他
	日動水協事務局	22. 1. 8	企業協賛について他
教育部	日動水協事務局	21. 5. 18	平成21年度教育部所管事項について
	日動水協事務局	21. 9. 29	資格認定試験関係他
	日動水協事務局	22. 2. 22	資格認定試験採点他

部 会	開 催 地	開催日	主な内容
安全衛生部	東山動物園	21. 11. 21～22	感染症対策委員会との合同会議
	円山動物園	22. 3. 23～24	感染症対策委員会との合同会議
情報部	日動水協事務局	22. 2. 3	情報部業務について他

(各部の主な活動)

- 1) 総 務 部 ①維持会員の拡充 ②各種要綱の見直し ③各種団体事業等への推薦、後援の決定 ④その他
- 2) 教 育 部 ①飼育技師資格認定試験の実施 ②新・飼育ハンドブック作成の編集 ③各技術者研究会の実施指導 ④教育普及ワークショップの指導 ⑤その他
- 3) 安全衛生部 ①事故、脱出防止・衛生対策 ②感染症対応 ③薬剤適正使用 ④大型動物麻酔研究会の開催 ⑤検疫関係 ⑥野生動物の救護 ⑦その他
- 4) 情 報 部 ①情報ネットワーク事業 ②グローバル化への対応 ③国際会議関係 ④国際的支援 ⑤その他

第 9 . 出 版 活 動

1. 動物園水族館雑誌

- (1) 発行回数 年4回 第50巻第2、3、4号、第51巻第1・2号
- (2) 体 裁 B5 DTPオフセット印刷 各冊30頁位
- (3) 内 容 動物園、水族館で日常の飼育業務を通じて得た知見等を取りまとめた論文を主体に、その他の調査研究報告、短報、各研究会での発表抄録等。
- (4) 編集会議 平成21年6月11日、9月18日、12月16日、平成22年2月17日の計4回開催し、掲載原稿の審査を行った。
- (5) 編集委員 ・編集顧問：正田陽一（東大名誉教授）、林 良博（東大教授）、鈴木克美（東海大名誉教授）
・委員長：小宮輝之（会長）
・委 員：樺澤 洋*（油壺）、勝俣悦子*（鴨川）、原久美子*（横浜市）、浜 夏樹*（王子）、福井大祐*（旭山）、西田清徳（海遊館）[* 印は編集実務担当]
- (6) 印刷部数 各号 800部
- (7) 配 付 （無償配付）特A・A会員2部、B・C会員1部、維持会員その他1部、大学、研究所、外国動物園水族館、その他関係団体に交換配付
- (8) 購読会員 年額 5,250円（会員園館職員 3,150円）
- (9) 購読者数 189名（内会員園館職員 149名）

2. 年 報

- (1) 発行時期 平成21年10月配付
- (2) 体 裁 A4 電子組版オフセット印刷
- (3) 内 容 ①動物園水族館に関する調査、②入園館料金と将来の予定、③年間有料・無料入園館者調、④経費調、⑤おもなる新施設（動物舎、遊戯施設）、⑥おもなる繁殖動物調、⑦長年飼育動物調、⑧原因別死亡動物調、⑨飼育動物一覧表；分冊としてPDFファイル化し、非公開ホームページに掲載

- (4) 印刷部数 450部
(5) 配布 (無償配布) 特A・A会員2部、B・C会員1部、その他会員1部、国会図書館等
(有償頒布) 1部10,500円で頒布した。

3. 月報

- (1) 発行時期 前月分を翌月末日までに作成。
(2) 発行方法 PDFファイルを非公開ホームページに掲載
(3) 内容 ①事務局報告 ②動物園報告〔ア. ニューストピックス、イ. 動物の異動、ウ. 新着動物の餌付方法、エ. 主なる新施設、オ. 催物、カ. 入園者及び飼育動物数、キ. 展示生物の交換、ク. 臨床剖検記事、ケ. 希望連絡事項〕 ③水族館報告〔調査内容は動物園に同じ〕

4. 事業概要

- (1) 発行時期 平成21年9月配付
(2) 体裁 A4 電子組版オフセット印刷 約70頁
(3) 内容 ①協会の概要 ②事業の総括 ③役員及び専門委員 ④総会及び理事会 ⑤園館長協議会 ⑥研究発表会等 ⑦各種講習会等 ⑧運営委員会の活動 ⑨出版活動 ⑩種の保存に関する活動 ⑪飼育技師資格認定試験 ⑫動物愛護週間行事 ⑬各種の表彰 ⑭国際交流 ⑮ワシントン条約関連による緊急保護 ⑯動物情報センターの活動 ⑰動物情報センター基金の募集 ⑱野生動物保護募金事業 ⑲動物園水族館活用ネットワーク推進事業 ⑳平成21年度予算の概要
付録(定款、日本動物園水族館協会倫理要綱、新入会員入会審査要綱、正会員・維持会員名簿、一般配布刊行物一覧)
(4) 印刷部数 600部
(5) 配布先 会員、関係官庁、関係団体、その他普及宣伝用に報道機関等

5. 幹部ならびに飼育技術職員名簿(非公開ホームページに掲載)

調査時期は平成22年4月

6. 飼育動物一覧表(非公開ホームページに掲載)

第10. 種の保存に関する活動

1. 種保存委員会

(1) 第16回種保存会議開催

- 1) 日 時 平成21年11月11日(水)、12日(木)
- 2) 場 所 京都市動物園・平安会館
- 3) 出席者 総裁殿下、98園館173名、会友2名、その他15団体25名、事務局2名
- 4) 議 事
 - ①記念講演
「環境省の生息域外保全の取組について」 環境省自然環境局野生生物課長 塚本 瑞天
 - ②特別講演
「チンパンジーの親子と教育」 京都大学霊長類研究所所長 松沢 哲郎
 - ③課題講演
「国際カエル年事業報告」 広島市安佐動物公園副園長 桑原 一司
「CBSG報告」 東京都多摩動物公園野生生物保全センター長 富田 恭正
 - ④種別事例報告
「上野動物園における国際ゴリラ年の取り組み」 東京都恩賜上野動物園教育普及係長 井田 素靖
「日本のゾウの現状と世界の動向」 群馬サファリパーク園長 川上 茂久
 - ⑤その他
類別分科会、ポスター発表、全体会議、類別活動報告、行動計画など

(2) 第1回種保存委員会開催

- 1) 日 時 平成21年7月23日(木) 11:00~17:00
- 2) 場 所 東京・上野公園グリーンパーク会議室
- 3) 出席者 種保存委員会委員ほか、計20名
- 4) 議 題 ①類別および技術部会報告 ②第16回種保存会議開催について ③公開ホームページの改正について ④カエル年事業報告について ⑤個体群管理研修について ⑥優先種助成取扱細目制定 ⑦イルカ問題について ⑧クロキツネザルの血統不明個体の繁殖について ⑨環境省との連絡会議報告 ⑩その他

(3) 第2回種保存委員会開催

- 1) 日 時 平成21年11月12日(木) 15:30~17:00
- 2) 場 所 京都市動物園・平安会館
- 3) 出席者 種保存委員会委員ほか、計20名、環境省保護増殖係長
- 4) 議 題 ①第16回種保存会議・類別行動計画における承認事項について ②優先種について ③各類別からの懸案事項について ④その他

(4) 第1回種保存委員会事務局会議開催

- 1) 日 時 平成21年7月2日(木)、3日(金)
- 2) 場 所 京都平安会館、京都市動物園
- 3) 出席者 種保存委員会事務局ほか、計8名

- 4) 議 題 ①種保存会議日程調整および会場確認 ②種保存委員会議案について ③環境省との連絡会議について ④その他

(5) 第2回種保存委員会事務局会議ならびに種の保存に関する環境省との連絡会議開催

- 1) 日 時 平成21年7月22日(水)
- 2) 場 所 日動水協事務所、上野・東京文化会館
- 3) 出席者 種保存委員会事務局ほか、計8名。連絡会議：環境省野生生物課長ほか、計9名
- 4) 事務局会議議題 ①種保存委員会議案について ②環境省との連絡会議について ③その他
- 5) 連絡会議議題 ①生息域外保全方策検討業務について ②環境省における域外保全の取扱事例 ③外来生物の輸入について ④動物愛護管理基本方針の点検(第2回)について ⑤野生復帰が困難な個体の飼育繁殖への積極的な活用について ⑥イヌワシの生息域外保全について ⑦特定外来生物からシフゾウ除外申し入れ ⑧動物取扱業に関する特別措置のお願い ⑨種保存会議開催について ⑩その他

(6) 第3回種保存委員会事務局会議開催

- 1) 日 時 平成21年11月10日(火) 13:00~17:00
- 2) 場 所 京都市動物園・京都市美術館
- 3) 出席者 種保存委員会事務局ほか、計8名
- 4) 議 題 ①種保存会議開催準備 ②種保存委員会開催準備 ③その他

(7) その他 上記(1)~(6)の詳細については、平成21年度種保存委員会活動報告を作成し、非公開ホームページに掲載する。

2. 類別繁殖検討グループ

次の11類別の動物群について、繁殖計画推進種を決め、緊急度の高いものから順次、類別繁殖検討グループを組織している。

- ・有袋類・その他 [類別調整者：橋川 央・名古屋市東山動物園]
有袋類・その他：コアラ、ウォンバット、フサオネズミカンガルー、パルマワラビー、オオカンガルー、オオアリクイ
- ・霊長類 [類別調整者：永井 清・東京都多摩動物公園]
類人猿：ニシゴリラ、ボルネオオランウータン、スマトラオランウータン、チンパンジー、ボウシテナガザル
ワカザル・マサザル類：シシオザル、フランソワルトン、マンドリル、ダイアナモンキー
原猿・キツネザル類：クロキツネザル、エリマキキツネザル、ピグミーマーモセット、ワタボウシパンシエ、スローロリス
- ・食肉類 [類別調整者：林 輝昭・アドベンチャーワールド]
クマ類：ホッキョクグマ、マレーグマ
大型ネコ類：トラ希少亜種、ユキヒョウ、チーター、ウンピョウ、ヒョウ希少亜種
小型食肉類：シセンレッサーパンダ、ネパールレッサーパンダ、カナダカワウソ、ユーラシアカワウソ、コツメカワウソ、ツメナシカワウソ、ツシマヤマネコ
- ・海獣類 [類別調整者：勝俣 浩・鴨川シーワールド]
ラッコ類：ラッコ

- 鰭脚類：カリフォルニアアシカ、トド、オタリア、ゴマフアザラシ、ゼニガタアザラシ、セイウチ
 クジラ類：バンドウイルカ、イロワケイルカ、スナメリ、カマイルカ
- ・有蹄類〔類別調整者：大津 晴男・広島市安佐動物公園〕
 - 奇蹄類：クロサイ、ミナミシロサイ、インドサイ、バク科全種、グレビーシマウマ、ハートマンヤマシマウマ、モウコノウマ
 - 長鼻類：アジアゾウ、アフリカゾウ
 - 偶蹄類：カバ、ニホンカモシカ、キリン、シロオリックス、アラビアオリックス
 - ・猛禽類〔類別調整者：坂東 元・旭川市旭山動物園〕
 - 猛禽類：コンドル、日本産猛禽類希少種、オオタカ、クマタカ
 - ・ペンギン類〔類別調整者：坂本和弘・東京都葛西臨海水族園〕
 - ペンギン類：フンボルトペンギン、ケープペンギン、マゼランペンギン、イワトビペンギン、マカロニペンギン、ジェンツーペンギン、オウサマペンギン、アデリーペンギン、ヒゲペンギン、コガタペンギン
 - ・コウノトリ・キジ・ツル類〔類別調整者：高見 一利・大阪市天王寺動植物公園事務所〕
 - コウノトリ類：ニホンコウノトリ、ホオアカトキ
 - ツル類：タンチョウ、マナヅル、ナベヅル、オグロヅル、ソデグロヅル、ホオカザリヅル、ハゴロモヅル、ヤンバルクイナ
 - キジ類：シジュウカラガン、コサンケイ、ヤマドリ全亜種
 - ・小型鳥類〔類別調整者：高木 嘉彦・埼玉県こども動物自然公園管理事務所〕
 - 小型鳥類：カンムリバト属、オオバタン、タイハクオウム、シロビタイムジオウム、アカコンゴウインコ、スマレコンゴウインコ、ヒワコンゴウインコ、ミドリコンゴウインコ、オオサイチョウ、サイチョウ、カササギサイチョウ、カンムリシロムク、ルリカケス
 - ・両生・爬虫類〔類別調整者：桑原 一司・広島市安佐動物公園〕
 - 両生類：オオサンショウウオ、ホクリクサンショウウオ、ハクバサンショウウオ、イシカワガエル、イボイモリ
 - 爬虫類：アルダブラゾウガメ、ホウシャガメ、ハミルトンガメ、インドセタカガメ、ヨウスコウワニ、ニシアフリカコガタワニ、インドガビアル、ガビアルモドキ、リュウキュウヤマガメ、クロイワトカゲモドキ
 - ・魚類〔類別調整者：池谷 幸樹・岐阜県世界淡水魚園水族館〕
 - 日本産希少淡水魚：ミヤコタナゴ、ハリヨ、ニッポンバラタナゴ、イタセンバラ、イチモンジタナゴ、スイゲンゼニタナゴ、ヒナモロコ、ウシモツゴ、アユモドキ、ネコギギ、ムサシトミヨ、ゼニタナゴ、タナゴモドキ、シナイモツゴ、アカメ、エゾトミヨ、カワバタモロコ、ホトケドジョウ、オヤニラミ
 - 外国産希少淡水魚：アジアアロワナ、ピラルク、オーストラリアハイギョ
 - ・技術部会〔調整者：竹田 正人・大阪市天王寺動植物公園事務所〕

3. 希少動物等の国際・国内血統登録事業

飼育下での累代繁殖による近親交配を避け、遺伝子の多様性を維持するために、希少動物種別繁殖対象種について血統登録を行い、繁殖計画をたてる（ただし魚類に関しては血統登録をしない）など長期繁殖計画を推進した。平成21年度は次の147種を対象として実施した。※印は、国際血統登録種。備考の数字は、平成21年8月～平成22年5月中に血統登録が発行された種と調査年度を示す。

No.	種別調整対象種	担当園館	担当者(調整者)	備考
1	コアラ	名古屋市東山動物園	橋川 央	2009
2	ウォンバット	長野市茶臼山動物園	北沢昌志	2009
3	フサオネズミカンガルー	東京都恩賜上野動物園	生井沢初枝	2009
4	パルマワラビー	伊豆シャボテン公園	岩田光一	2008
5	オオカンガルー	横浜市立金沢動物園	鈴木義明	2009
6	オオアリクイ	静岡市立日本平動物園	長倉綾子	
7	ニシゴリラ	東京都恩賜上野動物園	井田素靖	2008
8	ボルネオオランウータン	名古屋市東山動物園	茶谷公一	
9	スマトラオランウータン	名古屋市東山動物園	茶谷公一	
10	チンパンジー	東京都多摩動物公園	永井 清	2008
11	ボウシテナガザル	愛媛県立とべ動物園	前田洋一	
12	シシオザル	大阪市天王寺動植物公園事務所	西岡 真	2008
13	フランソワルトン	浜松市動物園	牧野良則	
14	マンドリル	豊橋総合動植物公園	今田七重	
15	ダイアナモンキー	札幌市円山動物園	向井 猛	
16	クロキツネザル	(財)日本モンキーセンター	加藤 章	2008
17	エリマキキツネザル	(財)日本モンキーセンター	加藤 章	2008
18	ピグミーマーモセット	千葉市動物公園	樽川 修	
19	ワタボウシパンシエ	千葉市動物公園	樽川 修	
20	スローロリス	東京都恩賜上野動物園	中村壮登	
21	ホッキョクグマ	旭川市旭山動物園	福井大祐	2008
22	マレーグマ	高知県立のいち動物公園	本田祐介	
	トラ希少亜種			
23	アムールトラ	神戸市立王子動物園	嶋谷吉彦	2008
24	ベンガルトラ	神戸市立王子動物園	嶋谷吉彦	2008
25	スマトラトラ	仙台市八木山動物公園	阿部敏計	2008
26	ユキヒョウ	東京都多摩動物公園	谷口 敦	2009, 2008
27	チーター	アドベンチャーワールド	伊藤 修	
28	ウンピョウ	横浜市立よこはま動物園	齋藤憲弥	
	ヒョウ希少亜種			
29	アムールヒョウ	福山市立動物園	杉之原鉄郎	
30	ペルシャヒョウ	福山市立動物園	杉之原鉄郎	
31	シセンレッサーパンダ	静岡市立日本平動物園	金澤裕司	2008
32	ネパールレッサーパンダ	静岡市立日本平動物園	金澤裕司	2008
33	カナダカワウソ	高知県立のいち動物公園	絹田俊和	
34	ユーラシアカワウソ	高知県立のいち動物公園	絹田俊和	
35	コツメカワウソ	高知県立のいち動物公園	絹田俊和	
36	ツメナシカワウソ	高知県立のいち動物公園	絹田俊和	
	日本産ネコ			
37	ツシマヤマネコ	福岡市動物園	長野理史	

No.	種別調整対象種	担当園館	担当者(調整者)	備考
38	ラッコ	鳥羽水族館	石原良浩	2009
39	カリフォルニアアシカ	(株)京急油壺マリンパーク	輿水克己	
40	トド	小樽水族館	角川雅俊	2009, 2008
41	オタリア	(株)京急油壺マリンパーク	輿水克己	
42	ゴマフアザラシ	新江ノ島水族館	寺沢文男	2009
43	ゼニガタアザラシ	小樽水族館	村上順二	2009
44	セイウチ	鴨川シーワールド	中野良昭	2009
45	バンドウイルカ	鴨川シーワールド	井上 聡	2009
46	イロワケイルカ	マリンピア松島水族館	神宮潤一	2009
47	スナメリ	宮島水族館	赤木 太	2009
48	カマイルカ	沖縄美ら海水族館	宮原弘和	2009
49	クロサイ	広島市安佐動物公園	大津晴男	
50	ミナミシロサイ	仙台市八木山動物公園	那須智行	2009
51	インドサイ	横浜市立金沢動物園	原久美子	2009
	バク科全種			
52	マレーバク	横浜市立よこはま動物園	松岡良樹	2009
53	ブラジルバク	横浜市立よこはま動物園	松岡良樹	2009
54	チュウベイベク	横浜市立よこはま動物園	松岡良樹	2009
55	グレビーシマウマ	京都市動物園	坂本英房	2008
56	ハートマンヤマシマウマ	川崎市夢見ヶ崎動物公園	河尻睦彦	
57	モウコノウマ	東京都多摩動物公園	山本藤生	2009
58	アジアゾウ	東京都恩賜上野動物園	横島雅一	2009
59	アフリカゾウ	群馬サファリパーク	川上茂久	2009
60	カバ	富士自然動物公園	片井信之	
61	ニホンカモシカ※	富山市ファミリーパーク	堀口政治	
62	キリン	東京都多摩動物公園	吉原正人	
63	シロオリックス	盛岡市動物公園	辻本恒徳	
64	アラビアオリックス	横浜市立金沢動物園	松山 薫	2009
65	コンドル	とくしま動物園	城 翠	
	日本産猛禽類希少種			
66	オジロワシ	おびひろ動物園	柚原和敏	
67	オオワシ	札幌市円山動物園	伊藤真輝	
68	ニホンイヌワシ	秋田市大森山動物園	千葉克己	
69	シマフクロウ	釧路市動物園	志村良治	
70	カラフトワシミミズク	旭川市旭山動物園	坂東 元	
71	オオタカ	富山市ファミリーパーク	堀口政治	
72	クマタカ	豊橋総合動植物公園	今田七重	
73	フンボルトペンギン	東京都葛西臨海水族園	山口香子	2008
74	ケープペンギン	サンシャイン国際水族館	富山昌弘	
75	マゼランペンギン	しながわ水族館	鈴木正勝	2008
76	イワトビペンギン	(株)京急油壺マリンパーク	山田一男	

No.	種別調整対象種	担当園館	担当者(調整者)	備考
77	マカロニペンギン	下関市立しものせき水族館	森本大介	2008
78	ジェンツーペンギン	名古屋港水族館	春日井苗子	
79	オウサマペンギン	アドベンチャーワールド	斉藤勝彦	2008
80	アデリーペンギン	名古屋港水族館	春日井苗子	2008
81	ヒゲペンギン	名古屋港水族館	春日井苗子	2008
82	コガタペンギン	東京都葛西臨海水族園	山口香子	2008
83	ニホンコウノトリ	東京都多摩動物公園	小川裕子	2009
84	ホオアカトキ	横浜市立よこはま動物園	白石利郎	2009
85	タンチョウ※	東京都多摩動物公園	小川裕子	2009, 2008
86	マナヅル※	埼玉県こども動物自然公園管理事務所	日橋一昭	
87	ナベヅル (ナベヅル※)	鹿児島市平川動物公園 大阪市天王寺動植物公園事務所	山田貴美子 高見一利)	2009, 2008
88	オグロヅル	東京都恩賜上野動物園	永野 知	
89	ソデグロヅル	東京都多摩動物公園	土屋 泉	
90	ホオカザリヅル	千葉市動物公園	小林正典	
91	ハゴロモヅル	広島市安佐動物公園	栗原龍太	2009, 2008
92	ヤンバルクイナ	ネオ・パークオキナワ	伊東 孝	
93	シジュウカラガン	仙台市八木山動物公園	石井里恵	2008
94	コサンケイ	千葉市動物公園	小林正典	
95	ヤマドリ全亜種 カンムリバト属	井の頭自然文化園 熊本市動植物園	永田典子 本田公三	
96	カンムリバト			
97	ムネアカカンムリバト			
98	オウギバト			
99	オオバタン	埼玉県こども動物自然公園管理事務所	高木嘉彦	
100	タイハクオウム	海の中道海浜公園動物の森	高田真理子	
101	シロビタイムジオウム	江戸川区自然動物園	長坂拓也	
102	アカコンゴウインコ	埼玉県こども動物自然公園管理事務所	日橋一昭	
103	スミレコンゴウインコ	到津の森公園	外平友佳里	
104	ヒワコンゴウインコ	埼玉県こども動物自然公園管理事務所	日橋一昭	
105	ミドリコンゴウインコ	伊豆シャボテン公園	竹田正裕	
106	オオサイチョウ	愛媛県立とべ動物園	田村千明	
107	サイチョウ	愛媛県立とべ動物園	田村千明	
108	カササギサイチョウ	愛媛県立とべ動物園	田村千明	
109	カンムリシロムク	横浜市立よこはま動物園	白石利郎	
110	ルリカケス	東京都恩賜上野動物園	寺田光宏	2008
111	オオサンショウウオ	広島市安佐動物公園	南 心司	
112	ホクリクサンショウウオ	いしかわ動物園	山本邦彦	
113	ハクバサンショウウオ	新潟市水族館マリンピア日本海	岩尾 一	
114	イシカワガエル	大阪市天王寺動植物公園事務所	佐野祐介	
115	イボイモリ	ネオ・パークオキナワ	玉城常智	

No.	種別調整対象種	担当園館	担当者(調整者)	備考
116	アルダブラゾウガメ	鹿児島市平川動物公園	玉井勘次	
117	ハウシャガメ	京都市動物園	岡橋 要	
118	ハミルトンガメ	横浜市立野毛山動物園	桐生大輔	
119	インドセタカガメ	横浜市立野毛山動物園	桐生大輔	
120	ヨウスコウワニ	大阪市天王寺動植物公園事務所	佐野祐介	
121	ニシアフリカコガタワニ	広島市安佐動物公園	屋野丸 武	
122	インドガビアル	熱川バナナ・ワニ園	清水秀男	
123	ガビアルモドキ	熱川バナナ・ワニ園	清水秀男	
124	リュウキュウヤマガメ	ネオ・パークオキナワ	玉城常智	
125	クロイワトカゲモドキ	ネオ・パークオキナワ	玉城常智	
126	ミヤコタナゴ	井の頭自然文化園	兒玉雅章	
127	ハリヨ	岐阜県世界淡水魚園水族館	池谷幸樹	
128	ニッポンバラタナゴ	滋賀県立琵琶湖博物館	松田征也	
129	イタセンパラ	水道記念館	横山達也	
130	イチモンジゼニタナゴ	宮津エネルギー研究所水族館	山田康幸	
131	スイゲンゼニタナゴ	姫路市立水族館	津田英治	
132	ヒナモロコ	海の中道海洋生態科学館	鈴木泰也	
133	ウシモツゴ	碧南海浜水族館	磯貝 徹	
134	アユモドキ	滋賀県立琵琶湖博物館	松田征也	
135	ネコギギ	志摩マリランド	里中知之	
136	ムサシトミヨ	さいたま水族館	村井久之	
137	ゼニタナゴ	ふくしま海洋科学館	倉石 信	
138	タナゴモドキ	沖縄美ら海水族館	松崎章平	
139	シナイモツゴ	新潟市水族館マリンピア日本海	石川訓子	
140	アカメ	虹の森公園おさかな館	津村英志	
141	エゾトミヨ	小樽水族館	青山 守	
142	カワバタモロコ	碧南海浜水族館	地村佳純	
143	ホトケドジョウ	滋賀県立琵琶湖博物館	松田征也	
144	オヤニラミ	宮島水族館	三浦和伸	
145	アジアアロワナ	岐阜県世界淡水魚園水族館	波多野順	
146	ピラルク	かごしま水族館	中畑勝見	
147	オーストラリアハイギョ	東京都恩賜上野動物園	浅野晃良	

4. 第19回ゾウ会議の開催(第6. 研究発表会等の欄に記載、20頁)

5. 保全繁殖専門家集団(CBSG)との協力関係

(1) 財政支援 330,366円(3,500ドル)

(2) 会議への参加(第14. 国際交流の欄に記載、39頁)

6. 希少動物飼育実態調査及び入手状況調査

希少動物飼育実態調査は平成21年12月31日現在を調査、種保存会議経過報告に掲載する。
希少動物入手状況については随時報告を受けている。

7. 生息域外保全モデル事業(動物)実施業務

平成20年度に引き続き、平成21年度も財団法人自然環境研究センターから受託し、絶滅のおそれのある野生動植物種の生息域外保全各種動物モデル事業を実施した。

(1) ハリヨ

- ① モデル事業区分 種の保存モデル、生息域外保全の技術開発モデル
- ② 目的 生息域外保全個体群の形成
近交劣化防止の人工繁殖技術確立と仔稚魚の飼育技術開発
- ③ 実施施設 滋賀県立琵琶湖博物館

(2) ナゴヤダルマガエル

- ① モデル事業区分 地域の協働参画モデル
- ② 目的 地域との共同参画による野生復帰、生息域外保全事業の普及啓発
里地里山に生息する希少種保全取組みの知見集積ほか
- ③ 実施施設 広島市安佐動物公園

(3) シルビアシジミ、チャマダラセセリ

- ① モデル事業区分 種の保存モデル、生息域外保全の技術開発モデル
- ② 目的 大型ケージによる交配実験による飼育下繁殖技術の開発
飼育下個体群維持に関する作業のルーチン化
- ③ 実施施設 橿原市昆虫館

第 1 1 . 飼育技師資格認定試験

- 1. 名 称 第38回飼育技師資格認定試験
- 2. 試験年月日 平成22年2月15日(月) 13:00～15:00 全国一斉
- 3. 試験場所 サンピ、八木山、埼玉動、上野、横浜動、八景島、高岡、茶白山、楽寿園、東山、南紀、海遊館、姫セン、城崎、鳥羽、高知、徳山、熊本、沖縄こ 計19カ所
- 4. 受験者 動物園の部 193名 水族館の部 103名 計296名
- 5. 試験の成績

(受験申込者 動物飼育202名、水族飼育105名、計307名 欠席11名)

区 分	動物飼育	水族飼育	計	率
[採点区分] 70点以上	156名	96名	252名	85.1 %
69点以下	36名	7名	43名	14.5 %
失格	1名	0名	1名	0.4 %
平均点	74.8	84.9	78.3	

平成22年2月24日、飼育技師資格認定委員会を開催し、70点以上252名を合格と決定した。

6. 受験用テキスト

受験用テキストは、動物飼育は新・飼育ハンドブック第1集～第4集(動物園編)、水族飼育は「飼育ハンドブック第3集(水族館編)、新・飼育ハンドブック第1集～第4集(水族館編)」を使用した。

第 1 2 . 動物愛護週間行事

1. 動物愛護に関する標語募集 (34回)

- (1) 趣 旨 動物愛護精神の普及啓蒙を図る。
- (2) 開催団体 主催 (社)日本動物園水族館協会
後援 環境省
- (3) 募集期間 平成21年7月1日～7月31日(1カ月)
- (4) 実施方法 行事参加園館は期間中に募集し、優秀作品5点を中央審査会に提出した。
- (5) 中央審査 朝倉 勇 (コピーライター)、中川李枝子 (童話作家)、西 純一郎 (環境省)、
会長
- (6) 応募点数 中央審査69園館 340点 (全国総応募数 7,993点)
- (7) 入選作品 イ. 環境大臣賞 1点 (甲府市遊亀公園附属動物園)
「カメさんが ゆっくり歩く いい世界」
ロ. 金賞 4点 (東武、鯖江、南紀、城崎)
ハ. 銀賞 15点 (釧路、埼玉動、智光山、上野、市原、横浜動、富山、
鯖江、茶臼山、浜松、とべ、サケ館、浅虫、富士水、宍道湖)
- (8) 賞 ・入選者には賞状とメダルを贈呈
・選外者にはバッジを贈呈
・上位 (大臣賞、金賞) 受賞者5名は、動物愛護週間中央行事会場で賞状、賞品及び副賞を授与した。
- (9) ポスター作成 上位 (大臣賞、金賞) 入選5点をポスターにし、各1,000枚合計5,000枚を印刷、
週間行事用として各園館及び関係団体に配布した。

2. 動物愛護週間中央行事

- (1) 名 称 動物愛護ふれあいフェスティバル
- (2) 日 時 平成21年9月19日 (土)、20日 (日)
- (3) 会 場 東京・上野恩賜公園内 (噴水池前広場・恩賜上野動物園・東京国立博物館平成館)
- (4) 内 容 愛犬しつけ方教室、聴導犬演技、ペット写真展、動物ふれあい広場、動物相談コーナー、粘土コーナー、動物折り紙コーナー、動物フォトスタジオ、動物お絵描きコーナー、スタンプラリー、動物愛護週間制定60周年記念切手贈呈式、標語・ポスター等コンクールの表彰式、シンポジウム「めざせ！満点飼い主—ペットの高齢化について考える」
(※表彰式の一つとして、当協会の動物愛護に関する標語上位受賞者5名の表彰が行われた。)
- (5) 実行委員会構成団体 環境省、東京都、(財)日本動物愛護協会、(社)日本動物福祉協会、(社)日本愛玩動物協会、(社)日本動物保護管理協会、(社)日本動物園水族館協会、(社)東京都家庭動物愛護協会、(社)日本新聞協会、(社)日本雑誌協会、(財)東京動物園協会、台東区、上野観光連盟 等
- (6) 協会参加者 専務理事、事務局職員

第13. 各種の表彰

1. 繁殖動物表彰

- (1) 趣 旨 飼育下の野生動物の繁殖に成功し、それがその種におけるわが国最初の例であった場合に表彰し、希少野生動物の繁殖技術の向上に資することを目的として、昭和31年度から実施している。
- (2) 審査対象 各園館から繁殖表彰規程に基づき申請のあったもの。
- (3) 審 査 審査員による審査結果(表彰候補)を会員園館に公示して異議の有無を確認し選定委員会を経て理事会で決定した。
- (4) 表彰日 平成22年度通常総会日
- (5) 賞 動物舎に貼付用表彰板を贈呈した。
- (6) 表彰動物 18園館29件

No.	園館名	動物名	繁殖区分	繁殖年月日	6ヶ月以上生育数 (表彰対象数)
1	沖縄こ	オリイオオコウモリ	人工	2009. 5. 8	1
2	井の頭	カイツブリ	自然	2009. 6. 15	2
3	野毛山	ブロンズトキ	人工	2008. 7. 9	2
4	多摩	ソデグロヅル	自然	2009. 5. 17	1
5	上野	オグロヅル	自然	2009. 7. 2	1
6	埼玉動	ミナミジサイチョウ	自然	2009. 6. 15	1
7	野毛山	ハミルトンガメ	人工	2009. 8. 5	1
8	野毛山	ハウシャガメ	人工	2009. 4. 8	2
9	上野	スベビタイヘラオヤモリ	自然	2009. 5. 2	2
10	埼玉動	アルマジロトカゲ	自然	2009. 1. 7	1
11	上野	チュウゴクワニトカゲ	自然	2008. 10. 10	6
12	岐阜水	ナガレヒキガエル	自然	2009. 4. 7	151
13	岐阜水	ヤマアカガエル	自然	2009. 3. 12	12
14	大洗	バリキヤットシャーク	自然	2008. 10. 30	1
15	大洗	パフアダーシャイシャーク	自然	2008. 6. 9	1
16	須磨	ビュウフォルティア・クウェイコウエンシス	自然	2009. 6. 4	42
17	須磨	セウエルリア・リネオラータ	自然	2009. 5. 30	10
18	城崎	ダルマオコゼ	自然	2009. 9. 25	1
19	小樽水	ホッケ	自然	2008. 12. 14	11
20	小樽水	ギスカジカ	自然	2009. 4. 5	32
21	越前	コンペイトウ	自然	2008. 11. 7	120
22	下関	クロイシモチ	自然	2009. 8. 9	9
23	東海大	<i>Amphiprion akindynos</i>	自然	2009. 2. 14	11
24	しまね	カザリハゼ	自然	2008. 11. 28	70
25	下関	ミジンベニハゼ	自然	2009. 9. 12	1
26	下関	ハチノジフグ	自然	2008. 12. 13	9
27	鹿児島	ミナミウミサボテン	自然	2008. 10. 19	5
28	品プリ	イソギンチャクエビ	自然	2009. 1. 9	15
29	新江水	クラゲモエビ	自然	2009. 12. 27	180